


退職者 NO.106
こだま会報



集団的自衛権NO! 武力で平和は築けない



紅葉と大山ケーブルカー (友井眞言)

今号の紙面

- ・コラム散歩道……………①
- ・手作り文化祭／おすす
めの1冊……………②
- ・こだま俳壇／スウェー
デン便り／予告……③
- ・会員紹介
(菊田 勲さん)……④
- ・社会保障制度「改革」
の行方……………⑤
- ・第28回高齢者大会／集
団的自衛権NOかなが
わ大集会……………⑥
- ・全国自治体退職者連絡
会総会／神奈川自治労
連退職者会総会……⑦
- ・楽しい料理教室／絵手
紙・はがき絵……………⑧

土曜日朝6時、10人乗りのレンタカーで逗子を出発。東京駅でも参加者に乗せ、常磐道を走り、昼過ぎ、南相馬に到着。急いで室内の準備をし、夕方まで「交流広場」を開催。短い時間だが、笑顔で語り合う姿が多く見られて嬉しい。

最初は物資配布を、1年過ぎから心の支援を
 集会所で、「交流広場」として
 実施。最近は、
 足湯・肩もみ・
 ハンドマッサージ
 が主である。

フクシマを忘れずに

吉田 綾子



南相馬市の「交流ひろば」で足湯、ハンドトリートメント、肩もみ (2014年6月21日～22日)

活動しているのだから、彼らを支援できたらと、参加して10回をすぎた。体力・気力・智力の衰えを感じつつ、時間がある限り、続けていきたいと思っている。ボランティアを楽しみながら…。

若い人たちは、貴重な休みを返上して
 活動しているのだから、彼らを支援
 できたらと、参加して10回をすぎた。
 体力・気力・智力の衰えを感じつつ、
 時間がある限り、続けていきたいと
 思っている。ボランティアを楽しみ
 ながら…。

『ぼちぼちいこ
 カー』というボ
 ランティアグル
 ループを作り、
 翌月から現在ま
 で30回、ほぼ月
 1回の支援を続
 けている。
 最初は物資配
 布を、1年過ぎ
 から心の支援を
 集会所で、「交
 流広場」として
 実施。最近は、
 足湯・肩もみ・
 ハンドマッサー
 ジが主である。

東日本大震災から3年
 余り。津波と放射能の恐
 怖は、遠い出来事になっ
 た人が多い。しかし、フ
 クシマは今も荒地地のま
 まの海岸線や、人の住ま
 ない死んだ
 ままの故郷が続いている。
 そんななか、20代の若者3人が

夕方は地元ボランティアの差し入
 れで、野菜たっぷりのおかずとご飯
 で舌鼓をうち(私はもっぱら炊事
 係)、近くの温泉で疲れを癒し、ミ
 ティングの後、男女別々に集会所で
 就眠する。
 日曜の早朝散歩をしながら、地元
 の人とお喋りをし、帰って朝食を作
 り、食べる。
 午前中、「交
 流広場」を続
 け、昼食後帰
 路につく。途
 中、道の駅で
 地元の野菜や
 産物を買ひ、
 夜9時～10
 時、逗子に到
 着、解散する。
 別れはいつ
 も、握手であ
 る。

第20回
ふれあい
手作り
文化祭

絵画 俳句 写真 など 力作ぞろい



華やかなフラダンスを披露

合唱や踊りで交流

神奈川県自治労連退
職者会の「第20回ふ
れあい手作り文化

祭」が11月1日、横
浜市従会館で10時に
オープン。

参加者は2
50人超で

大盛況。午後3時過ぎまで交流が続
きました。

作品展示コーナーには、切り絵や
写真、絵手紙、絵画、手芸、俳句、
書、編み物、ハイキングクラブの活
動等々、力作が展示され、「みんな
力作だね」「私にもできるかな」な
どの声も。

演芸会場の舞台では、歌や踊り、
フラダンスなどが次々に披露。テー
ブルでは、軽食をとりながら交流の
輪ができました。

こだま会員の文芸作品は、絵画
4人、写真2人、俳句18人、絵手紙
2人、葉書絵2人、書3人、被災地
福島応援ツアー写真1点、クロー
バーの押し花1点。演芸は、フラダ
ンス5人、歌3人、田宮流居合抜き
1人の計41人でした。

神奈川自治労連退職者会



田宮流の居合抜きを披露する稲本春雄さん



見事な書や生け花



絵画・写真コーナー



俳句・絵手紙・はがき絵コーナー

おすすめの1冊

『ヘイトスピーチとはなにか』

師岡康子 著

700円+税



このところヘイト・スピーチ(hate speech)の言葉をマスコミの報道
でよく見かけます。

この用語は、1980年代にヘイ
ト・クライムとともに一般化した意



外に新しい用語です。日本語では、

「差別的憎悪表現」と訳されています。

ヘイト・スピーチもヘイト・クラ

イム(hate crime)のいずれも人種・

民族・性などのマイノリティに対す
る、差別による攻撃をさします。

例えば、朝鮮人学校や生徒に対し
て、聞くに耐えない罵詈雑言を浴び
せるとか、サッカー場の観覧席の横
断幕に、日本人以外を締め出す差別
表現を掲げる行為などがあります。

これらの行為が蔓延していくと、
人々の人権を侵すところまで進いま
す。社会は、これに対して規制を選

びます。国際社会では、ヘイト・ス

ピーチを放置せずに、規制の濫用を
防ぎつつ、国が規制すべきだとの共
通の認識になってきているとのこと
です。ただ、表現の規制とその自由の
関係が、問題ともなっています。

本書はこの問題の包括的入門書と
言えるでしょう。著者は弁護士。人
権法が専門です。

岩波新書(新赤版)。2013年
12月刊 (木村武子)

こだま俳壇 (10月)

釣人の背なに紅葉の二三枚 鳥海 敏雄
 紅葉狩小枝を箸に御裾分け 小川 水草
 紅葉絵の余白にそえて旅便り 友井 眞言
 点滴を見上げる窓辺もう秋か 横川美代子
 金木屋五百羅漢を包みけり 松尾佐知子
 白壁に影絵のごとし紅葉かな 松本 正治
 醤油蔵出でて眩しき空や秋 田中 一男
 リハビリの友を見舞うや秋日和 島田多嘉子
 今年には今年の思ひ紅葉かな 柳瀬 節子
 逝きし友しらせもなくて神無月 中村 桂子
 いつもの席でコーヒーする秋の暮 木村 武子
 秋の夜のあとがき長き歌集かな 坂 守
 読みかけの本よりばらり押し紅葉 鈴木志げ子
 撫子やもつとやさしく出来たのに 三井 光子
 金木屋牛舎三戸の分かれ道 井村 友彦
 俳人のありのままの私菊香る 高橋 和江
 遠雷に立ち向うよな太鼓かな 白井保次郎
 櫛落葉晩学というころざし 太田 土男

予告!! 予告!! 予告!!

- 第59回歴史教室(講義)
 と き 11月27日(木)13時30分~16時30分
 場 所 県庁本庁舎6階共用会議室
 テーマ 小田原北条氏五代
 講 師 生方武羅夫・会員
 会 費 無料。初めての方歓迎
 申込先 こだま会事務所 045(212)3179
 または佐藤喜治 045(361)0112
- 俳句サークル「こだま句会」
 (会員募集中)
 月例句会(毎月第2木曜日13時~)
 12月11日 1月8日
 ところ 県庁本庁舎6階共用会議室
 指 導 太田土男先生(俳人協会)
 会 費 800円
 申込先 こだま会事務所 045(212)3179
 または井村友彦 0463(81)4493
- 囲碁同好会
 月例会 毎月第1日曜日12時から
 場 所 「囲碁サロン」JR藤沢駅南口そば
 申込先 こだま会事務所 045(212)3179
- 食文化を楽しむ会(薬膳料理)
 と き 12月4日(木)11時~15時
 ところ 横浜市西区公会堂/料理室
 内 容 風邪予防の薬膳料理
 会 費 2000円
 講 師 亀井禎子会員
 申込先 こだま会事務所 045(212)3179



スウェーデン だより 加瀬文隆

実感! 「豊かさとは何か」

▲▼マンションから見た風景



妻の仕事の関係でストックホルムに来て、はや40日となりました。9月中は団体観光客でにぎわったGumla stan(旧市街)も、落ち着きを取り戻しています。私たちの住居は、ストックホルム

事務局だより

- こだま会事務局は毎週火曜日(午前10時~午後4時)ボランティアで運営しています。
- 各事業の問合せや、相談ごとなどは、電話またはFAX、メールどうぞ。
- 住所 231-8588 横浜市中区日本大通り1 県庁本庁舎6階
- 電話 045(212)3179(代)
- FAX 045(212)3178
- メール kodama@kodamakai.sakura.ne.jp

中央駅から地下鉄で5つ目のHorns 23から徒歩10分の高台のアパートを借りています。緑と湖に囲まれたところで、散歩コースにことかきません。

今日(10月10日)は、天気よかつたので、夕方から湖沿いSussen(地下鉄で3駅)まで散歩に行きました。並木で車道と隔たれた広い歩道と自転車専用道路(これが日本でも欲しい)を、湖越しに市庁舎側の美しい建物群を見ながら1時間15分でSluss senに。見晴らしの良いレストランでビールを飲み、小一時間ゆったりし、夜景を見ながら徒歩で帰宅。

4年に1度の総選挙に遭遇し、また、老人ホームや知人宅への訪問などで、スウェーデン人の生活を垣間見て、「豊かさとは何か」を実感。何よりも見習うべきは、85%を超える投票率に現れている「参加意識の高さ」ですね。



-42-



原稿を頼まれ、はて困ったなと思いつつも、私の近況をお知らせできることはありがたいことだと思いい、筆を執らせていただきました。

私は、2006年に神奈川県を退職、その後第二の職場で3年間勤め、2009年に完全に仕事から離れることができました(その後も若干の期間、非常勤として勤めることはありましたが)。

仕事を離れたとたん、地域の人々が待っており、町内会の役員に、しかも三役として取り込まれてしまいました。我が町内会は、松ぼっくり(老人のお茶飲み会)、地引網大会、夏まつり、バス旅行、運動会、芋煮会、清掃活動、防犯パトロールなど様々な行事を活発に行っており、何かと役員の出番が多くなっています。正直なところ少々窮屈な生活をしているところ

です。しかし、地域での役割を与えられたことはありがたく、また地域

の人々とも知り合いが増え一つの財産となつていふことに感謝しなければならぬと思つています。

さて、43歳からランニングを開始し、現在も続けています。この間、4分の1世紀強、走り続け、

ランニングの効用エトセトラ

菊田 勲さん



2014年の初詣マラソン(かもめ走遊会のみなさんと鎌倉・岩殿寺で。左から3人目が菊田さん)

ち、達成できたときの喜びは心地よいものです。

次に健康。私の場合は風邪をほとんどひかなくなりました。ひいても寝込むことなく、軽くて済みます。汗をかき、代謝機能が増したせいかもしれません。

三つめ

は、共通の趣味を土台とする仲間と楽しく過ごす時間・空間を持つること。とくに、走った後、皆で一杯は最高です。走らなくても飲み会は盛り上がりませが…。

四つめは、精神的なリラックス。何らかのストレスがあるのが日常ですが、走ることで解放感が得られます。

五つめは、目標が持てること。マラソン大会に向け、距離をこなす、坂道の練習をする、酒を控え

る(これはなかなか難しい)等にとりくみ、生活にメリハリがつけられること。

その他、認知症予防にもなると言われていますが、私にとっては未知数です。

現在、週に5日程度はジョギングをしています。古希を迎える身となり、年々体力の衰えは否めません。走つても後から来た人がどんどん追い越していきま

す。「行つてらっしゃい」とお見送りする立場となり、寂しさともにも、いつまで走れるのかと不安を感じるこの頃です。しかし、私が属している「かもめ走遊会」には諸先輩方が元気に走つておられます。その姿を見習い、今後走り続けていきたいと思つています。まだまだ走れるぞと。



社会保障制度「改革」の行方

2012年度以来検討されていた社会保障制度の「改革」が、本年6月に成立した「医療・介護総合法」(略称)により、いよいよ具体化されることになりました。

このため4月に消費税率を上げ、医療・介護・子育て・年金等に充てるということでしたが、特に医療・介護を一体化しつつ圧縮し、「自助」「共助」の強化が図られています。

「自助」については、自ら働いて、自らの生活を支え、自らの健康は自ら維持するとして、「健康自己責任論」を展開し、自己管理ができている人は保険料を減額するようなことも検討されています。

また「共助」は、親族や近隣の人たちが互いに助け合うということなのですが、社会保険である介護保険を分割し、市町村に丸投げ。しかもボランティアを組み込むということは、公的サービスと私的サービスをいっしょくたにしたもので、乱暴な改革ではないでしょうか。市町村によつてはNPO法人すらないところがあるというのに。

医療については、「かかりつけ医」制度を強化し、それを経ず大病院に行つた場合は初診料を高額にするなど、さまざまな受診抑制が検討されているようです。さらに2025年、「団塊の世代」が75歳以上に達し、超高齢社会になるのに対し、病床の整備目標は現在の107万床を103万床へと4万床の削減ですから、当然入院日数は縮減されます。

一般病床を高度急性期15日、急性期9日など、4段階に区分し、あらゆる段階から在宅復帰を促すため、診療報酬上の仕組みが新たに進められています。

現在でも認知症の独居者や老老介護世帯が増えているのに、在宅で誰



が介護するのでしょうか。2025年までに、ヘルパーを100万人増やすと政府は主張していますが、あまりに現実を無視した発想です。

ヘルパーのほとんどは主婦で、登録制であり、身分保障も一般労働法を無理に当てはめているので、運用が極めて難しく、収入も一定しないため、経済的に厳しい人は施設に流れています。

しかも年齢的に60から70代が多く、離職者を補充する若い世代は、呼びかけても働く人がいないので、どの事業所もヘルパー不足に悩んでいます。

外国人の採用も検討されていますが、施設ならともかく、個人宅の訪問介護はそれぞれ言葉や習慣が異なり、不可能と言つていいでしょう。

一方、特別養護老人ホームに入所ができなくとも、さまざまな有料老人ホームが乱立しているのですが、資金のある人は心配ないでしょうが、年金が削減されている今日、低所得者が貧困ビジネスの餌食になりかねません。対策が望まれるところです。

(新井通子)

「武装解除人」(伊勢崎賢治氏)を招いて

県職員
九条の会

「平和のつどい&総会」

と き ■ 11月29日(土)

開会：14時～17時

ところ ■ 横浜市健康福祉センター

8階8F会議室(JR桜木町駅前)

講演 ■ 「武力行使で平和は築けるのか
(仮) - 集団的自衛権は日本をどう変えるのか -

講師 ■ 伊勢崎賢治氏

東京外語大学大学院教授

資料代 ■ 500円

連絡先 ■ 佐伯義郎 090(2473)2681

★★講演の前に
総会を行います★★



伊勢崎賢治氏

伊勢崎賢治 (いせさき・けんじ) 氏のプロフィール ● 国際援助、和平実現のための武装解除などで国際的に活躍。『武装解除—紛争屋が見た世界』(講談社)、など著書多数。講演、新聞、雑誌、テレビ等各メディアに出演。現・東京外語大学大学院教授

憲法を活かし、みんな が輝く社会 平和な日本を

第28回日本高齢者大会in富山・レポート

第28回日本高齢者大会が、「憲法をくらしに活かし、みんなが輝く社会、平和な日本を」をスローガンに9月12日から13日、富山市内で開かれました。大会には2日間で全国から延べ5347人が参加、こだま会からは2人が参加。仲戸川実さんのレポートをお届けします。

高齢者パワーを目的の当たりに

これまでの高齢者大会参加の実績をみると、平均で約5500人。まず、その多さに感心しました。

◇ ◇ ◇

1日目は、東京駅を7時48分に出発、分科会の会場(富山大学)に着いたのは12時。7の学習講座、16の



昨年を上回る5347人が参加



記念講演の池田香代子さん

分科会、4の移動分科会と選択の幅が広すぎ、どこに参加しようか迷っているうちに、開催時間の1時が迫り、あわてて入ったのは第2分科会「日本軍『慰安婦』問題と女性の人権を考えよう」でした。

最初に、ドキュメンタリー映画『終わらない戦争』(金東元監督・2008年制作・60分)を視聴し、「コリア・プロジェクト@富山」の堀江節子さんの話を聞いた後、意見交換が行われ、14人が発言。「慰安婦」

問題の本質はどこにあるのかが浮き彫りになりました。

◇ ◇ ◇

2日目は全体会。13日の午前中、富山市総合体育館で行われ、池田香代子さんの記念講演「平和な未来をきずく『100人の村、あなたもここに生きています』」。

そして、福島・沖縄からの報告、

声を上げよう！ 集団的自衛権NO

「集団的自衛権NO! かながわ大集会」が10月26日、横浜スタジアム前の横浜公園で開かれ、4000人超が参加しました。こだま会からは10余人が参加。集会後、「集団的自衛権NO」「戦争させない」と市



「集団的自衛権NO! かながわ大集会」に4000人超

来賓あいさつ、八尾高校芸能部による『越中おわら節』の歌と踊り、大会決議案と大会アピール案が採決されました。

◇ ◇ ◇

大会・交流会を通じて高齢者パワーを目的の当たりにすることができ、大変有意義なものとなりました。

(仲戸川実)

内3コースに分かれて行進しました。馬車道周辺の道路では、結婚披露宴を終えた数十人の人たちがデモ行進に手を振るなど、注目を集めていました。

集会は神奈川県労働弁護団、社会文化法律センター神奈川支部、自由法曹団神奈川支部、青年法律家協会弁学会合同部会神奈川支部が主催し、横浜弁護士会が後援。県憲法共同センターや神奈川平和運動センター、政党では民主、共産、社民(メッセージ)が参加するなど、党派を超えた幅広い集会となりました。

11月29日(土)には、「武装解除人」の伊勢崎賢治さんを迎えた「神奈川県職員9条の会・平和のつどい&総会」が開かれます(5面参照)。

(鳥海敏雄)

力をあわせ医療・介護・年金の改善を

8月23日(土)午後1時30分から京都のホテルルビノ京都堀川で、全国自治体退職者連絡会第17回定期総会が開かれ、こだま会からは加藤利秋相談役(事務局次長)、植木真理子代表幹事代行、小島八重子事務局次長が出席しました。参加者は約70人。

全国自治体退職者連絡会第17回定期総会

経過報告では、後期高齢者医療・国保・介護保険・年金制度の充実を求め、政府・厚生労働省への要請・交渉の結果など1年間のとりくみが報告されました。とりわけ、自治労連本部から常駐デスクの提供やネット回線などの支援が、とりくみを支えていると強調されました。

活動方針では、アベノミクス(長沢事務局長が考案したアベノミクスをもじった造語?)の暴走をくい止めるために、憲法9条を守る、年金引き下げ反対、消費税増税反対など6項目の目標と組織強化・高齢者の特性を生かしたとりくみの展開、20周年記念誌の発行準備などが提起されました。

討論では、8人が発言。震災復興

支援へのお礼と現状(岩手)、青年部との連携や文化活動(大阪)、集まる・作る・食べるを基本とした運動の経験(京都)、土砂災害への支援の訴え(広島)、神奈川からは「こだま会報」、長寿祝制度、人間ドック、



全国から約70人が参加して交流 (京都)

神奈川は、すべて賛成多数で承認されました。来年の開催は名古屋市内のことです。

元気で安心 してその人 らしく

また、総会開催の前に京都散策ができました。有名なお寺を訪ねる時間はありませんでしたが、京都の裏道を歩きました。古さと新しさが混在しながらもバランスのとれた古都の町並みに触れ、ホッと、一息つくことができました。(小島八重子)



神奈川自治労連退職者会第23回定期総会

神奈川自治労連退職者会は10月16日、横浜市従会館で第23回定期総会を開き、新年度の活動方針や新役員体制を確立。神奈川自治労連委員長から連帯のあいさつを受け、元氣よく運動をスタートさせました。

開会にあたり、会長代行の内田次敏さん(鎌倉)は、「アベノミクスはさらなる格差拡大をもたらした。

消費税増税8%の半年間、賃上げは進まず、家計は大打撃。深刻な増税不況だ。そのうえ来年は10%にするなどとんでもない」と指摘。「安倍政権の暴走にストップを」と呼びかけました。

各議案提案後、質疑討論。参加者から、後期高齢者の健康保険料アップに反対する運動をはじめ、福島復興支援バスツアーのとりくみ、横浜市で進行している企業保育園の現状、県退職者会解散に伴うこだま会への加入運動などの発言があり、運動方針を補強しました。

年金・医療・福祉制度の充実や、平和のとりくみ、予算、新役員などを大きな拍手で確認。閉会挨拶は新会長の植木真理子さん(こだま会代表幹事代行)。「退職後も元気で安心して、その人らしく暮らせる社会をめざしてがんばりましょう」と呼びかけました。(鳥海敏雄)

〈新4役とこだま会幹事等の紹介〉
 会長・植木真理子(県) / 副会長・眞次英一(横浜)・内田次敏(鎌倉) / 事務局次長・高須昌和(横浜) / 事務局次長・青沼慶祐(県) / 幹事・小島八重子(県) 並木まり子(県) / 会計監査・酒井道生(県)
 全国自治労連退職者連絡会副会長・眞次英一(横浜) / 同事務局長次長・加藤利秋(県) (敬称略)

